



翔

2011

February

No.208

百万石蝶談会

石川県のオオミスジを探そう その2

松井 正人

かつて金沢市では、山間地集落周辺でオオミスジを普通に観察することができた。しかし、1995年以降に金沢市では観察されていないことや、減少したことによってレッドリストに掲載する都道府県が増加してきたことなどから、最も調査が必要な種の一つである（大脇・松井、2008）とし、2008年に「石川県のオオミスジを探そう（松井、2008）」で調査を呼びかけた。

今回、2008～2010年に金沢市と白山市で新たな知見が得られたので、今後の調査への資料として報告したい。

報告にあたり、精力的に調査された結果を、ご教示いただいた浅野直樹氏と長田 真氏にお礼申し上げます。



白山市木滑の発生木の近くで観察した成虫
(2010年7月10日撮影)

■調査の概要

石川県のオオミスジは、これまでに白山市、小松市、金沢市で観察されている。白山市では、旧鳥越村の河原山周辺で1993年から観察され、今回の2008～2010年の調査でも積雪時以外は観察することができた。小松市では、1961年の記録が唯一のものであり、その後の観察報告は無く、今回の調査は行わなかった。金沢市では、1970～1980年代に各地で多数が観察されていたが、1994年の観察を最後に今回の度重なる調査でも観察できなかった。

■調査対象地

①白山市鳥越・吉野谷周辺、白峰周辺

鳥越・吉野谷周辺は、木滑の濁澄橋下流から下吉谷の不老橋にかけて、手取川の左岸の鳥越地区と右岸の吉野谷地区で、卵、幼虫、成虫ともに観察することができた。

白峰周辺の記録は、文献を調べていて最近新たに分かったが、1953年とかなり古い。小坂（1954a）には、「白峰村牛首」が産地として報告され、小坂（1954b）には、「1953年8月4日白峰」として、日付と大まかな産地（白峰村）が報告されている。発表された時期などから、同一の記録を扱ったと考えると、1953年に白峰村牛首（現在の白山市白峰）で観察されていた事になる。旧白峰村は、手取川ダムができるなど周辺環境は当時

と大きく変化しているが、白峰（旧牛首）周辺は、ダム湖の影響をほとんど受けていないため、今後の調査が必要と思われる。

②小松市新保丸山周辺

新保丸山周辺の記録は、1961年と古く、その後の記録もない。今回の調査を含め最近の調査は行われていないため、今後の調査が必要と思われる。

③金沢市戸室周辺、湯涌周辺、犀川周辺、内川周辺

戸室周辺は、戸室新保、戸室別所を中心に東は医王山の標高600m付近から、西は角間（現在の金沢大学角間キャンパス）までと広く、1979年から1994年にかけて、幼虫や成虫が最も観察された場所であるが、今回の調査では、幼虫、成虫ともに観察できなかった。

湯涌周辺は、北の戸室周辺から西の内川周辺に連なる産地の一角にあり、1980年に成虫が観察されているが、今回の調査では観察できなかった。

犀川周辺は、北の戸室周辺から西の内川周辺に連なる産地の一角にあり、1958年と1979年に成虫が観察されているが、今回の調査では観察できなかった。

内川周辺は、小原や大平沢で1972年から1991年に幼虫や成虫が観察されていた場所であるが、今回の調査では、幼虫、成虫ともに観察できなかった。



■調査結果

オオミスジの生活史に合わせ、その時期に応じた調査を行い、積雪期以外に調査を行ったが、観察できたのは白山市の鳥越・吉野谷周辺だけだった。幼虫は、林縁にあるウメや孤立したウメで観察し、苗のような木から登れるような大きな木の上の方にまで付いていた。成虫は、幼虫が付いていた木の周辺で待っていると、どこからともなく飛来した。

幼虫の期間は長く調査に向いているが、小さな幼虫は見つけづらいため、幼虫が残す特異な食痕を頼りに探していたが、10月中旬からは落葉が始まってしまい、食痕が頼りとなったのは10月上旬までだった。また、幼虫の数は、食樹のウメが11月から翌年の3月にかけて剪定されることや、越冬中に捕食されることで減ってしまうため、調査はそれまでに行うことがベターと思われた。

以下、月を追って報告し、最後にこれまでと今回の調査結果を基に作成した「石川県の生活史」を示す。

①4月～5月の幼虫調査

越冬中や越冬明直後の幼虫調査は、枝に張り付いている小さな幼虫をあてもなく探すために見つけづらいが、5月に入ると幼虫が葉柄をかじってしおらせた葉が目立つようになり、これを頼りに探すと近くに怪獣の様な姿をした見事な終齢幼虫が見つかった。



越冬から覚めた幼虫は、ふくらんだ花芽を芽鱗ごと食べたり、花が開くと、花びらや雄しべ、雌しべを食べる (2009年4月5日撮影)



台座から移動し、芽吹いたばかりの葉を食べる3齢幼虫

(2010年4月18日撮影)



葉表上で摂食中の4齢幼虫
(2008年5月3日撮影)



摂食するために葉柄をかじってしおらせた葉
と、近くの枝に静止する終齢幼虫
(2008年5月3日撮影)



葉柄がかじられ半分ほど摂食され、しおれか
けた葉
(2008年5月3日撮影)



葉柄がかじられたために枯れてしまった葉
と、近くの枝に静止する終齢幼虫
(2008年5月3日撮影)

② 6月～7月の蛹と成虫調査

蛹の適期に調査することができず、羽化殻しか見つからなかったが、幼虫時代に葉柄をかじってしおらせた葉やその直ぐ近くで蛹化していた。成虫は、6月下旬～7月上旬に、発生木に飛来し、発生木の葉上や近くの木や草に止まるのを観察した。



葉柄をかじってしおらせた葉の蛹と、隣にあった何者かに食害された葉の蛹。しおれた葉は、落葉しないように吐糸でつながっている。

(2008年6月28日撮影)



葉柄をかじってしおらせた葉の横の蛹。しおれた葉は、カビが生えているが、吐糸によって枝につながっているため落葉していない。

(2008年6月28日撮影)

2010年度収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

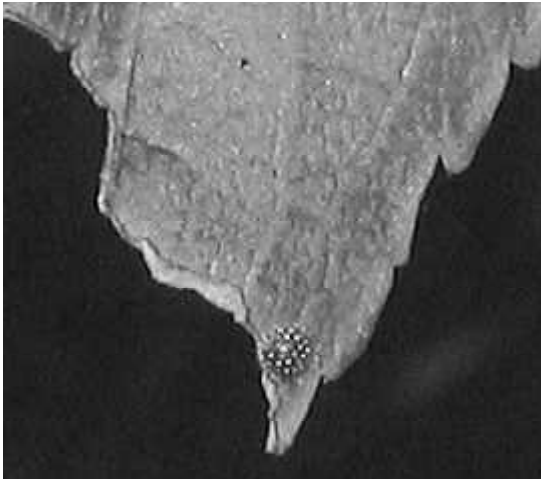
収 入		支 出	
項 目	金額 (円)	項 目	金額 (円)
2010年度会費	98,000	会誌作成費	155,400
当該年度以外会費	8,000	例会費	8,000
会誌売上金	20,200	石川県自然史センター会費	3,000
郵送負担金	21,000	郵送費	23,180
寄付金	33,650	消耗品費	1,020
前年度繰越金	56,254	次年度繰越金	46,504
計	237,104	計	237,104

年会費は2,000円、郵送負担金は500円

③ 7月～10月の卵と幼虫調査

卵は7月下旬と8月上旬に観察しているが、幼虫の観察結果から7月中旬には産卵されていると思われる。葉の表面先端部、あるいは先端付近の中脈上に産卵されていた。

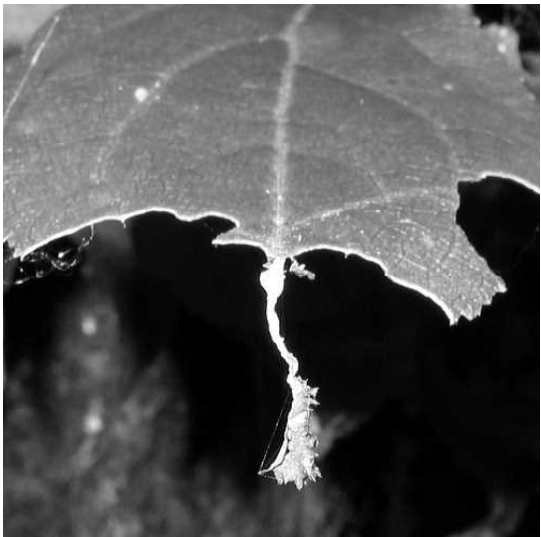
幼虫は、7月下旬から観察され、3齢に達するまでの期間が短いのか、この頃既に初齢から3齢までの幼虫が観察できた。3齢になると成長は緩慢となり、8月末には枝に静止する3齢幼虫を観察した。この時期の幼虫は数mmと小さく見つけづらいが、葉の先端部中脈を残した特異な食痕や葉柄をかじって葉をしおらせてから摂食するため、これらを頼りに探すと見つけ易い。



葉の表面先端部に産卵された卵
(2008年7月26日撮影)



葉の先端部中脈を残した特異な食痕と2齢幼虫
(2008年7月26日撮影)



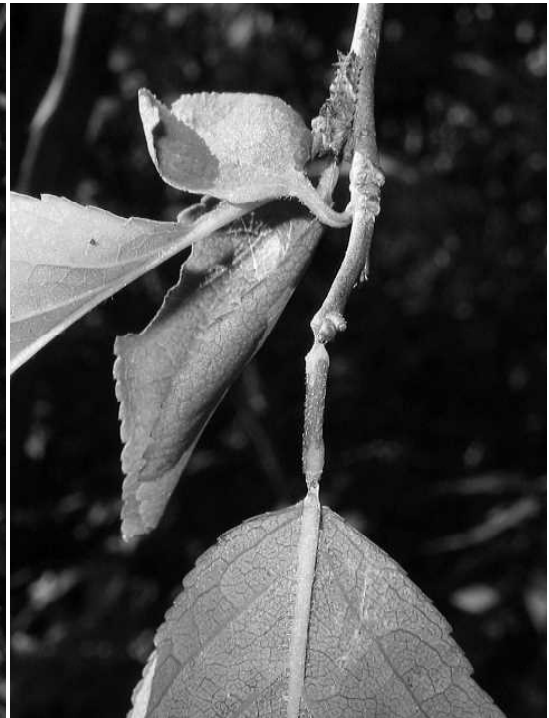
葉の先端部中脈を残した特異な食痕と3齢幼虫
(2009年8月23日撮影)



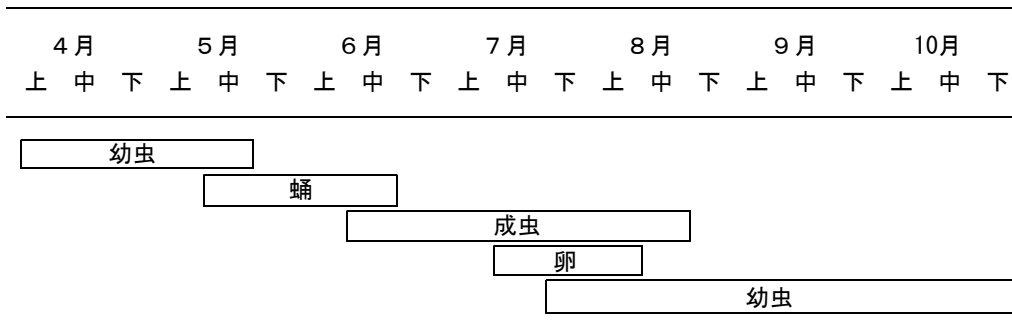
葉柄をかじってしおらせ、中脈上に静止する3齢幼虫
(2008年8月15日撮)



葉柄をかじってしおらせ、葉の先端部に特異な食痕を作る3齢幼虫 (2008年8月31日撮影)



葉柄がかじられて垂れ下がる葉と、枝に静止する3齢幼虫 (2008年8月31日撮影)



石川県の生活史

《 参考文献 》

小坂 巖 (1954a) 石川県産蝶類目録. pp7.

小坂 巖 (1954b) 石川県の蝶について. 新昆虫 7(2):46-47.

松井正人 (2008) 石川県のオオミスジを探そう. 翔(191):3-5.

大脇 淳・松井正人 (2008) 近年減少傾向の8種のチョウの石川県における現状. 昆虫と自然 43(5):28-31.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

左右の羽の形状が違うキタテハを観察

田 辺 幸 雄

10月7日(木)に撮ったキタテハですが、左右の羽の形状が違うような気がします。色は完全に左右とも秋型なのですが、外縁部のギザギザが右と左では明らかに違うように感じます。

2010年10月 7日 石川県内灘町旭ヶ丘 1 頭目撃 田辺幸雄

百万石蝶談会事務局の松井さんに相談したところ、「右半分の個体と左半分の個体が別個体の合体型で、片方に秋型が、片方に夏型が発現したのではないか」との見解をいただきましたが、如何せん写真がこの1枚しかなく、断定までには至りませんでした。

その日に撮った、他のキタテハの写真は全て通常型のものでした。キタテハの秋型は、羽の先端がカールする個体もあり、角度によってはこの様に写るのかもしれませんが、報告しておきます。



《たなべ ゆきお 〒920-0275 内灘町旭ヶ丘158》

会員の動き・しゃばの動き

■かくれんぼ君を探しに行こう

取り出し口が分からなくなってしまうスコッチテープを、子供達は「かくれんぼ君」と呼んでいたが、どこにいるのか分からない虫界きっての「かくれんぼ君」の生体展示が昆虫館で開かれている。コノハムシやコノハギスは、国内では生体展示できないので、特別許可が下りた今しか観察できない。

■「むしかご通信」総目次

ふれあい昆虫館の情報を発信してきた「むしかご通信」が50号になり、総目次も作られた。創刊号は昆虫館がオープンした1998年で、皇太子ご夫妻の楽しい写真が表紙を飾っている。以来12年、子供達や虫好きの大人に楽しみや驚きを提供してきた。

■錦をまとったトゲナナフシ

平地の木々も盛んに葉を落とし始めた12月、小春日和に誘われて卯辰山を散策すると、落葉の絨毯が日差しに輝き、ひなたぼっこするトゲナナフシが、絨毯の縁からのぞいていた。

■新居は標本箱収納棚を完備

日吉宏朗氏、年末に新居が完成し、大桑町から対岸の末町に転居した。新居は太い梁が見える構造で、木の存在感が大きい。我々愛好家にとっては、標本箱収納棚の存在感が大きい。

■標本数更新中

2008年に標本1万頭を達成した輪島の日吉氏、その後も精力的に標本を作製し、2010年末で1万と1058頭に達した。なんとと言っても、すべて自分で作った標本なのがスゴイ。

■小さな虫探し

ホシミスジが市街地でポツポツ観察されているが、これからの季節は越冬幼虫探し打って付け。ユキヤナギやシモツケは街路や庭に良く植えられているので、広範にわたって見つかるかもしれないが、年寄りの眼には、越冬巣はちょっと小さ過ぎるか。

■長寿のナナフシ

3種のナナフシを飼っているが、トゲナナは長寿の代表で、翌年の夏まで飼育が楽しめる。ニホンは12月6日に昇天し、シラキはクリスマスを迎えられず23日に召された。飼育温度は4度まで下がっていたので、加温すれば正月を越せたかもしれない。

■十日町市のチョウ図鑑

新潟県十日町市に限定し、これまでに記録されている種と、今後に期待したい種の105種を紹介した検索図鑑が、市立里山科学館「キョロロ」から発行された。著者は大脇氏で、身近なチョウに興味を持ってもらおうとの思いから、採集や標本の作り方、観察地も紹介している。

■トゲナナフシはいつまで観察できるか

ナナフシにはまり込んでしまったA氏とM氏、トゲナナがいつまで観察できるか、張り合っている。A氏は卯辰山、M氏は小坂町で観察していたが、12月25日からの積雪で観察は中断している。おそらくこれでお終いでしょう。

■石川むしの会「とっくりばち78号」

減少が激しく危機的な状況にあるイカリモンハンミョウについて、知事に提出され

た要望書が掲載されている他、シタバニハゴロモの生息調査、奥能登の水生昆虫、ババエダシヤクを含む蛾類記録など、県産初記録種が20種程報告されている。

■石川県での初観察

毎年の初観察と言えばギフチョウが定番で、温暖化が影響しているのか、最近では3月中旬に集中している。石川県で越冬できず、第1化の個体が飛来するイチモンジセセリの初観察は、1979年までは6月10日だったが、2010年までには5月15日と1月程早くなった。

■能登舩倉島・七ツ島の自然環境

2008～2010年にかけておこなわれた同調査の学術報告書が、2011年1月に発行された。この地域の情報は手に入れにくく、まとめられた情報は貴重である。昆虫は、富沢、吉道、中田の3氏が担当し、チョウリストには新たに3種が加わり20種となった。

■2010年の迷蝶

三重のアオタテハモドキ、静岡や神奈川、長野のカバマダラ、北海道や静岡、愛知、新潟のリュウキュウムラサキ、東京や茨城

のウスキシロチョウなど、猛暑が続いた昨年は迷蝶が多かった。石川は、ナガサキアゲハだったが、もうちょい調べると、コノマチョウ2種は見つかったかもしれない。

■ 例 会 の 記 録 ■

12月2日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、能登のシルビアシジミについて、1年間の調査結果を福富氏と細沼氏が紹介。5月～10月にかけて、志賀町から輪島市の海岸で観察されているが、この地区には、能登半島国定公園の特別保護地区もあるので採集には注意が必要。

その他の話題は、これがうわさのウスズミキチョウ、ホシミスジの越冬巣、カバマダラと思ったツマグロヒョウモン、粟津公園のシタバニハゴロモとシンジュキノカワガ、内灘のウスバカマキリ、長寿のナナフシ、石川県のスネケブカは何処にいる、高洲山で自衛官に睨まれる、などなど。

参加は、山岸、浅地、富沢、竹谷、福富、松井、浅野、大宮、細沼、長田の10人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

松井正人：石川県のオオミスジを探そう その2	1
田辺幸雄：左右の羽の形状が違うキタテハを観察	8
編集部：会員の動き・しゃばの動き	9

翔 208号

Tobu 2011年2月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所



撮影/松井 正人



撮影/小幡 英典